BENTO おべんとう展 | 作家紹介〔五十音順〕

阿部 了
あべ さとる
SATORU ABE

1963年東京都生まれ。写真家。気象観測船「啓風丸」に機関員として乗船後、写真家に。2000年頃より日本全国を回って手作りのお弁当と、食べる人のポートレート撮影を開始。作品は2007年4月号からANAの機内誌『翼の王国』にて「おべんとうの時間」として連載、現在も続く。2011年からはNHK「サラメシ」にてお弁当ハンターとして出演中。本展の展示に合わせて、写真集『ひるけ』並びに『おべんとうの時間(4)』を木楽舎より出版。

大塩 あゆ美
おおしお あゆみ
AYUMI OOSHIO

1986年、静岡県生まれ。文化服装学院服装科卒業。料理家たかはしよしこのアシスタントを経て独立。出張料理「あゆみ食堂」として、さまざまなイベント、展示会などでケータリングを行う。料理を食べる人、食べる環境、コンセプトに合わせて作るオーダーメイドレシピも多く手がける。季節ごとの食材で楽しく美味しい食卓を作りながら、日本の生産者の食材と食べ手をつなぎたいと思いながら活動中。

小倉 ヒラク
おぐら ひらく
HIRAKU OGURA

1983年東京都生まれ。発酵デザイナー。「見えない発酵菌たちのはたらきを、デザインを通して見えるようにする」ことを目指し、全国の醸造家たちと商品開発や絵本・アニメの制作、ワークショップを開催。東京農業大学で研究生として発酵学を学んだ後、山梨県甲州市の山の上に発酵ラボをつくり日々菌を育てながら微生物の世界を探求している。《てまえみそのうた》でグッドデザイン賞2014を受賞。新著に『発酵文化人類学』(木楽舎)。

北澤 潤
きたざわ じゅん
JUN KITAZAWA

1988年東京都生まれ。美術家。北澤潤八雲事務所代表。国内外約30の地域に関わりながら、中長期的なフィールドワークを経て多様な人びとと協働し、日常に問いを投げかける場を共同体の内部に生み出す「コミュニティ・スペシフィック」を志向したアートプロジェクトを実践し続けている。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。米経済誌フォーブス「30 Under 30 Asia 2016」アート部門選出。

小山田 徹
こやまだ とおる
TORU KOYAMADA

1961年鹿児島県生まれ。美術家。京都市立芸術大学日本画科卒業。1984年、大学在学中に結成した「ダムタイプ」の活動と並行して90年代からさまざまな共有空間の開発を始め、コミュニティセンター「アートスケープ」「ウィークエンドカフェ」などの企画を行う。近年は東日本大震災後に宮城県女川町にて住民や建築家らと結成した「対話工房」のメンバーとして、コミュニティの再生に携わる。京都市立芸術大学教授。

平野 太呂
ひらの たろ
TARO HIRANO

1973年生まれ。写真家。武蔵野美術大学卒。2000年よりフリーランスとして活動。スケートボードカルチャーを基盤にしながら、カルチャー誌やファッション誌や広告で活動中。主な著書に『POOL』(リトルモア)、『ばらばら』(星野源と共著/リトルモア)、『東京の仕事場』(マガジンハウス)、フォトエッセイ『ボクと先輩』(晶文社)、『Los Angeles Car Club』(私家版)、『The Kings』(ELVIS PRESS)がある。2004年より東京都渋谷区にてNO.12 GALLERYを主宰している。

マライエ・フォーゲルサング
MARIJE VOGELZANG
photo by Ilja Keizer

1978年オランダ・エンスヘデ生まれ。2000年デザインアカデミー・アイントホーフェン卒業。レストランのコンセプト開発から医療や教育などさまざまなフィールドにおいて、食べる行為にまつわるデザイン提案を展開するイーティング・デザインのパイオニア。2014年よりデザインアカデミー・アイントホーフェンのフードノンフード学部の学部長に就任。日本では、2008年に初の個展「eating+design デザインにできること2」をAXISギャラリーで開催。

森内 康博
もりうち やすひろ
YASUHIRO MORIUCHI

1985年福岡県生まれ。映像作家。株式会社らくだスタジオ代表取締役。2009年横浜国立大学教育学部人間科学部卒業。らくだスタジオプロデュースによるドキュメンタリー映像や、CM・PV・アートプロジェクトの記録映像の撮影、また大学研究機関との映像アーカイブプロジェクトに携わる。

ワークショップ作家
山本 千織
やまもと ちおり
CHIORI YAMAMOTO

料理人。北海道生まれ。札幌の「ごはんや はるや」に12年間関わり、2011年に東京・代々木上原で「chioben(チオベン)」を開業。見た目と味の意外性、一度食べたら忘れられないと評判に。現在は、撮影現場への弁当の仕出し、ケータリング、雑誌や広告へのレシピ掲載、イベント出店など幅広い場面で活躍。著書に『チオベン 見たことのない味 チオベンのお弁当』(マガジンハウス)、『チオベンの弁当本』(KADOKAWA)がある。 (作品展示はありません)

「BENTO おべんとう展」を何度でも楽しめる特別2冊組図録発売中!!

いただきます編 ▸展覧会会場でお渡し

- ユニークなお弁当箱コレクションの紹介 (写真家平野太呂の撮り下ろし)
- 出品作家のインタビュー記事
- 担当学芸員の小論やコラム

ごちそうさま編 ▸クリスマス頃お手元に届きます! (2018年12月下旬予定)

- 展示室のインスタレーション風景
- ワークショップの記録

2冊組図録(2冊をまとめるスリーブ付き) **1800円**(税込)

展覧会会期中に「BENTO おべんとう展」の入口のチケットカウンターや、ロビー階入口のミュージアムショップでお買い求めください。

東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

BENTO おべんとう展

2018 7.21土-10.8月

東京・上野公園

ギャラリーA・B・C

東京都美術館

BENTO
—Design for Eating, Gathering and Communicating

開室時間 9:30-17:30(入室は閉室の30分前まで)
夜間開室 金曜日は9:30-20:00(入室は閉室の30分前まで)
休室日 毎週月曜日、9月18日(火)、9月25日(火)
※ただし8月13日(月)、9月17日(月・祝)、24日(月・休)、10月1日(月)、8日(月・祝)は開室

【主催】東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団) 【後援】オランダ王国大使館 【協力・協賛】奈良県、奈良県木材協同組合連合会、株式会社エヌ・シー・エヌ、株式会社木楽舎『月刊ソトコト』 【会場構成デザイン】フジワラテッペイアーキテクツラボ

Tokyo Tokyo FESTIVAL

BENTO おべんとう展

2018 7.21土-10.8月

ギャラリーA・B・C

東京都美術館

行楽（こうらく）弁当から毎日のお昼ごはんまで、お弁当は私たちの生活に深く根付いています。お花見や運動会など誰かと一緒に食べるお弁当は、人のつながりを深めるソーシャル・ツールとして、昔から重要な役割を果たしてきました。また、誰かが作ってくれた一人用のお弁当は、その一つ一つに作る人と食べる人の物語があり、作る人から食べる人への贈り物とも言えます。「お弁当を作る」人は、食べる人の「お弁当の時間」を想像し、味のバランスを考え、お弁当箱に食材をちょうど良く詰めていきます。つまり、お弁当は「食べること」を巡る、コミュニケーション・デザインでもあるのです。

この展覧会は、日本独自の食文化であり、人と人をつなぐお弁当をコミュニケーション・デザインの視点からとらえ、その魅力を体験しながら、新たな視点を得られる空間になっています。遊び心のあるユニークな形のお弁当箱や、現代のアーティストたちの参加型の作品などを展示します。

Whether shared picnic boxes or everyday lunch boxes, bento holds deep significance in our lives in Japan. This exhibition looks at Japan's unique culture of "bento" and "eating" from the perspective of communication design, through works by contemporary artists. A see, hear, touch, and participate exhibition, fun for families and adults too.

みどころ 1 歌って踊れる「おべんとう」!?

展覧会はお弁当をテーマとした、小倉ヒラクの新作のアニメーション作品から始まります。口ずさみやすいメロディと歌詞、振り付けで、歌って踊ると自然とお弁当のことがよくわかる作品です。

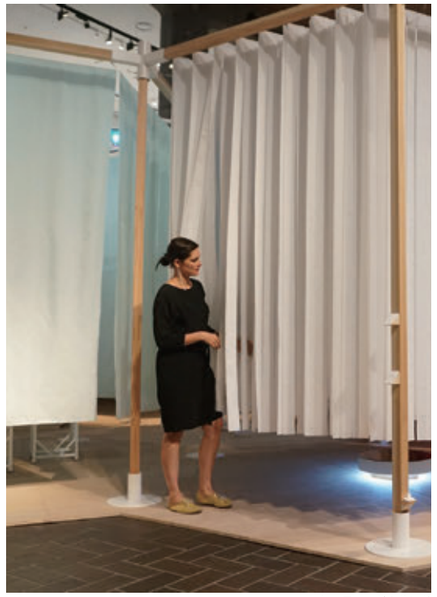
小倉ヒラク《おべんとうDAYS》部分 2018年

アニメーション：小倉ヒラク
音楽：松本素生（GOING UNDER GROUND）
振り付け：flep funce!

みどころ 3 参加体験型作品を通じて「おべんとう」を再発見

食べることをデザインするイーティング・デザイナーであるマライエ・フォーゲルサングは、お弁当の「触ることや見ることができない」側面、例えば人と人とのつながりや記憶、その未来像などを《intangible bento》で生き生きとした物語として表現し、その物語に私たちを誘います。

私たちの慣れ親しんだお弁当を、普段とは違う視点で捉える作品を通じて、来館者自身がよくみて、考え、お弁当を再発見することができる実験室のような空間です。



マライエ・フォーゲルサング
《intangible bento》2018年

みどころ 2 「おべんとう」が生み出すコミュニケーションに注目

読者からの「誰々にこんなお弁当を作ってあげたい」というお便りに応えて、大塩あゆ美がお弁当を作り、平野太呂が撮影し、読者にレシピとお弁当箱が届けられるプロジェクト《あゆみ食堂のお弁当》や、お弁当を黙々と食べる姿から、食べている人とお弁当を作った人との関係性にまで想いが馳せられるような阿部了の作品《ひるけ》を紹介します。

料理：大塩あゆ美　写真：平野太呂
《あゆみ食堂のお弁当》2017年

阿部了《ひるけ》2018年

また、お弁当を起点に自分と自分の身の回りの世界との関係について、じっくり考えることができる作品も紹介します。小山田徹は家族とのお弁当づくりのアーカイブ《お父ちゃん弁当》を、森内康博は、中学生が親の手を借りず自分でお弁当を作る様子を子どもたち自身がドキュメンタリー映像にするワークショップを行い、そのプロジェクトを映像作品として展示します。

小山田徹《お父ちゃん弁当》2017年

森内康博《Making of BENTO》2018年

北澤潤
《FRAGMENTS PASSAGE -おすそわけ横丁》2018年
撮影：中島佑輔

北澤潤は、誰かと一緒にお弁当を食べるときの「おすそわけ」に着目。美術館の中にその気持ちや文化を考える《FRAGMENTS PASSAGE - おすそわけ横丁》という異空間を作り出します。展示室には様々な人がおすそわけしたいと思ったものが集まり、実際にそれを分かち合うことができます。あなたはそこで何をおすそわけしますか？してもらいますか？

みどころ 4 遊び心のあるお弁当箱

江戸時代に宴などの場で使われた、美しくユニークな形のお弁当箱。また、保温機能があるなど食べる状況に応じデザインされた一人用のお弁当箱。そして世界のさまざまなお弁当箱に注目し、私たちの文化の中の「食べること」への工夫やデザインに注目します。

個人蔵

観覧料（税込）

一般	800円
団体（20名以上）	600円
65歳以上	500円
大学生・専門学校生	400円
高校生以下	無料

※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方（1名まで）は無料 ※毎月第3土曜日と翌日曜日は「家族ふれあいの日」により、18歳未満の子を同伴する保護者（都内在住、2名まで）は、一般当日料金の半額 ※8月15日（水）、9月17日（月・祝）、19日（水）は「シルバーデー」などにより、65歳以上の方は無料（当日は混雑が予想されます） ※いずれも証明できるものをご持参ください ※10月1日（月）は「都民の日」により、どなたでも無料（当日は混雑が予想されます） ※都内の小学・中学・高校生並びにこれに準ずる者とその引率の教員が学校教育活動として観賞するときは無料（要事前申請）

相互割引 ●特別展「没後50年　藤田嗣治展」の観覧券（半券可）を本展会場入口でご提示の方は、一般料金から300円引き（1枚につき1名1回限り） ●「おべんとう展」の観覧券（半券可）を館内のチケットカウンターでご提示の方は、「没後50年　藤田嗣治展」の当日券が100円引き（1枚につき1名1回限り）

展覧会特設サイト　http://bento.tobikan.jp

twitter アカウント　@bento_tobi

東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36
TEL 03-3823-6921
http://www.tobikan.jp

交通のご案内

○JR上野駅「公園口」より徒歩7分
○東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅「7番出口」より徒歩10分
○京成電鉄京成上野駅より徒歩10分
※駐車場はございませんので、車での来館はご遠慮ください。

Period: **Jul21 Sat-Oct 8 Mon , 2018** | Venue: **Tokyo Metropolitan Art Museum , Gallery A/B/C** | Closed: **Mondays, September 18,25 (except for August 13,September 17,24,October 1,8)** | Hours: **9:30 – 17:30, Open 9:30 – 20:00 on Fridays**
*Last admission 30 minutes before closing. Open hours and closing days are subject to change. Please check the latest information on our website.

Admission: General **¥800** /seniors 65+ **¥500** /College Students **¥400** /HS students and younger admitted free/ Grups(20 or more people) **¥600**

Organizer: **Tokyo Metropolitan Art Museum**
Support: **Embassy of the Kingdom of the Netherlands, Nara Prefectural Government, Nara Prefecture Federation of Wood-Industry Cooperatives, New Constructor's Network Co.,LTD., KIRAKUSHA,Inc.(Sotokoto)**
Venue Design: **FUJIWALABO**

ACCESS
By train: 7 min on foot from Ueno station on JR line.
10 min on foot from Ueno station on Tokyo metro.
10 min on foot from Keisei Ueno station on Keisei line.
* No parking area, so please refrain from coming by car.